

令和4年度 第8回女性活躍井戸端会議
本年度の振り返りと次年度の展望についての主な意見

1. 本年度の振り返り

- 模擬議会に参加した記憶が強く残っている。目的や問題意識を共有し、皆で話し合うことができ、充実感があつた。
- 本年度は座学が多くインプットすることに偏りがあつたかも知れないが、次年度からは計画も新しくなり実践に取り組むということで、より明確にアウトプットも出せると期待している。
- この場に参加することで、これまであまり考えてこなかつたジェンダーやLGBTQなどについて考えるようになった。今後もこうした場に関わる機会を増やすことで、いまの課題を多くの人が知り、考えることになると思う。
- 井戸端会議のなかで、無意識にあつた偏見が溶けていったように思う。これからは自分の生活や家庭で実践していきたい。
- 本日は夜の会議となつたが、子どもを連れてきてもいいとの話があつたのでこうして連れてくることができた。この「ああ、連れて行っていいんだね」と思える雰囲気、ぜひ町のあちこちに広がることを期待する。
- 井戸端会議には、普段会うことのない人たち、個性的なメンバーとたくさん顔を合わせることができた。いろんな人がいて、いろんなことをして暮らしていることがわかつたのは良かったし、楽しかつた。

2. 次年度の展望

- 今後の5年間では、井戸端会議など町の取り組んでいることをより多くの人に知ってもらい、応援してもらう、そういう良いサイクルを回すことにつなげてもらいたい。箕輪祭りなどの場を活用した周知を図るアイデアもあつたが、多くの住民に知ってもらおうという意味で重要だと思う。
- 策定された計画をみると、数値目標がきちんと示されており、事業の担当課も明確になっている。来年から具体的に動き、変化をつくれる計画だと思う。本町ではこれまでも、イクボスや井戸端会議など、変えるべきことを変えようという努力をし続けており、それを今後も継続してもらえると期待する。
- この場には役場職員として参加しており、それ自体が珍しいこととも言われたが、おかげでバラエティ豊かなメンバーから多くのヒントをもらえた。そのことで、役場内の担当部署内に、施策

に男女の意見をともに反映するための会議をつくることもでき、実践につながっている。本町にはさまざまな専門的スキルをもった方が多くいることと思うし、その力を活かせば、これからも色んなことができると思う。

- 今年この場で、問題を発見し、こうしようああしようと考えerまでは良かったと思うが、実践するハードルはより高いことと思う。すべてはこれからだ。一部の人だけでやるのではなく、町全体に動きを広げていかなくてはいけない。大変かと思うが、がんばっていただきたい。
- 当事者にとってどう思うのか、そうしたことを想像することは当事者でなくともできる。想像し、自分ごととして考えること。いかに、この町に住むひとりひとりが、自分ごととして考えることができるか。来年以降も、そのことを考えていきたい。
- 井戸端会議という場所そのものが、多様性のある場だと感じる。ここでは、普段なかなか言えないことも、ひとりの人間として発言できるし、その発言に勇気づけられることもあった。そうした場があること自体が大事なことだと実感するし、来年からはこの場を、こうした人の輪を、町内へと広げていきたいと思っている。
- そもそも「活躍」とはなにかを考えると、たとえば子どもと一緒にこうした場に出るといったこともそうだと思う。役場では、この場をはじめ、色々なことに取り組んできたところだが、まだ十分知られていない部分も感じる。来年以降も、住民の皆さんに広く知っていただくよう企画していきたい。また、井戸端会議メンバーを今年で終わられる方も、来年以降の実践プロジェクトで開くイベントやサロンなどの開催の折には、ぜひ参加していただきたい。